

近藤麻由

JOSHIBI no.177



どこにも属さない自分で、 あり続けたい。

ファッションや音楽に関するヴィジュアルのアートディレクション、DJとしての音楽活動、インディペンデント誌の発行と、自らの感性を軸にさまざまなフィールドを駆け抜けてきた近藤麻由さん。「どこにも属さない」を旨とする氏のあり方に迫る。

Photo 渡辺一城 Text 立古和智

グ

ラフィック作品をつくったり、絵を描いたり、美術史に没頭したりと、いろんなことをやれた女子美の芸術学科は、私には合っていたと思います。けれども卒業後に対する、具体的なイメージを持てず悩んだこともありました。やりたいことが明確になったのは、3年次の休暇に、一カ月ほどニューヨークに滞在したときです。目に飛び込んできたファッション広告の格好良かったこと。ケイト・モスがモデルをしていたカルバン・クライン、モノクロームの写真が大胆に使われたダナ・キャラン。これらブランドの広告ヴィジュアルを目のあたりにして「これだー」と思いました。雑誌「high fashion」の編集部でアルバイトをはじめたのは直後の4年次で

す。これだと思ったらすぐ行動(笑)。DJをはじめたのも同じ頃でした。当時DJが職業になるとは思っていなかったから、あくまで趣味のつもりでしたけど、私はアートやファッション、音楽などを、昔から感覚としては分けていません。実のところ一カ所に留まらずいろんな形で表現活動をし続けたジャン・コクトーが私の理想で、卒論のテーマにしたほどです。現在の私も、アートディレクションのほか、音楽活動やインディペンデント誌「RUBYPAPER」の編集などをしていますが、それはいつも「やりたい」に素直に従ってきた結果です。ファッションの背景には音楽があり、音楽の背景にアートがあるように、もっといろんなカルチャーがリンクしたり

ミックスしたほうが面白いじゃないですか。もちろんひとつを追求している人のこともリスペクトしていますが、私の場合はそれだと飽きそうなんですよね(笑)。

ファッション、アート、音楽、人物をリンクさせることは、自主発行しているヴィジュアル誌「RUBYPAPER」におけるひとつのミッションでもありません。自分のまわりにいる優れたクリエイターたちが何のしがらみもなく表現できるこの自由なメディアでは、メンズとレディースの分け隔てもありません。こだわっているとしたら寄稿者がみんな東京の人ということ。こうしてひとつの媒体を発行し、イベントも開催すれば、そこには音楽もリンクしますし、イベントにいろんなジャンルの



寄稿者が参加すれば、ジャンルの壁を越えて繋がる。まだ小さいながらも新たなムーブメントが生まれたような気がします。

ちなみに私がDJをするときの名義「PUNKADELIX」には「PUNK」を謳っています。クリエーターって、みんな良い意味で反骨心みたいなものを持っていませんか？ 人と違うことがしたい。新しい表現を試みたい。自分らしくありたい。私もそうです。だからジャンルや「何々系」というものに縛られるのは昔から苦手かもしれない。そんな風に王道から外れると批判の対象にもなりやすいのでしょうけど、それは気にしません。むしろ自

分から動いて場をつくりながら発信している人と賛同者もたくさん現れるものですからね。

ファッションや音楽において一番大切なのは、やっぱり感性でしょうか。流行っているものを把握するだけでなく、古いものも同時に掘り下げ、次に来るトレンドを早く察知する。私の場合、時代の空気を探る場所としてクラブやライブハウスの存在は大きいんです。最先端の音楽があってファッションに興味のある人たちが行き交っていますから。モデル、スタイリスト、フォトグラファーなどのクリエイターだけでなくさまざまな人々が、ここでの出会いから大きな刺激を得



ています。自分のまわりに常にクリエイターがいて、インスパイアしてくれる環境は本当に大切。映画や音楽、本などを手にすることで感覚を磨くことも欠かせませんが、身近な友人たちや仕事仲間の存在はとて重要なんです。その意味では女子美にいた頃と今とは本質的に変わっていません。私は決して優秀な学生ではなかったけれど、クリエイターの同志ばかりの環境に身を置くなかで、確実に感性を磨くことができました。授業で学んだことも有益だったものの、やっぱり個人的な人々との関わりがあったからこそ今がある。私が今の活動をできているのは女子美にいたおかげです。

近藤麻由

アートディレクター、DJ、「RUBYPAPER」発行人。1997年女子美術大学芸術学部芸術学科卒。雑誌「high fashion」で編集とデザインを経験し、2000年からフリーランスに。ファッションブランドやCDジャケットなどのアートディレクションを手がける一方で、PUNKADELIX名義でDJとして音楽活動を続ける。2010年より自身によるインディペンデント誌RUBYPAPERを発行。
<http://www.thevoice.jp>



①

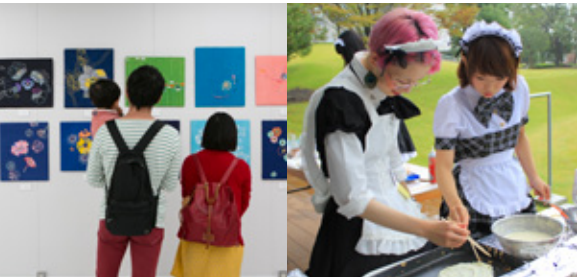


②



③

① 自身が監修するインディペンデント誌。2010年より不定期に発行し、ファッション、アート、音楽、人物を独自のスタンスでリンクさせたジェンダーレスで新しいスタイルのヴィジュアルペーパー。この表現自由なメディアに共感するクリエイターやモデルの有志によって制作されている。<http://rubypaper.jimdo.com/> ② レディースファッションブランド「SLY」の春のキャンペーンヴィジュアル。広告及び映像のアートディレクションを担当。 ③ ファッションビル「PARCO」の春夏キャンペーンヴィジュアル。広告及びポスターのアートディレクションを担当。



100周年記念大村文子基金

創立100周年記念事業の一環として、平成11年に大村理事長夫妻からの寄付を基に「100周年記念大村文子基金」は設立されました。本基金の目的(※)のために功績のあった者、および団体に各賞が贈られ、以下の方々に授与されました。また、今年から新たに「女子美栄誉賞」が新設されました。(詳細はP.11の記事をご参照ください)

平成26年度 第15回 女子美パリ賞

[パリ国際芸術都市アトリエ使用権]
[副賞 100万円]

上岡ひとみ

平成17年 芸術学部 立体アート学科 卒業
平成19年 大学院 美術研究科 修士課程 美術専攻 立体芸術研究領域 修了



『Repairing Ground』

平成26年度 第8回 女子美ミラノ賞

[大学借上げマンション1年間貸与]
[副賞 100万円]

古山春香

平成18年 短期大学部 造形学科
空間インターフェイス系 卒業
平成19年 短期大学部 専攻科 修了

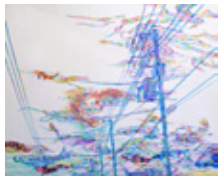


家具シリーズ『リラ・アトリエン』

平成25年度 第13回 女子美 制作・研究奨励賞 [副賞各20万円]

春草絵末

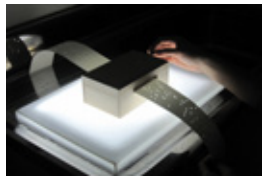
平成14年 芸術学部 絵画科
日本画専攻 卒業



『ほどける夕間』
油彩、オイルパステル、キャンパス/
H1303xW1620x63mm /2012年

渡辺 望

平成19年 芸術学部 絵画学科
洋画専攻 卒業



『voice of the stars』
インスタレーション(シート式オルガニート) /2012年



古井彩夏

平成23年
芸術学部 立体
アート学科 卒業
平成25年
大学院 美術研究
科 修士課程 美術
専攻 立体芸術研
究領域 修了

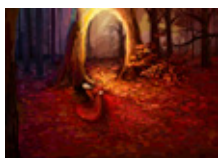


『Queen』
鉄/H900xW1450xD900mm/2013年

平成25年度 第12回 女子美美術奨励賞 (留學生対象) [副賞各10万円]

羅 雨青

大学院 美術研究科 修士課程
デザイン専攻 メディアアート造形
研究領域 2年次在籍



『日本妖怪絵』
デジタルペイント (Photoshop)

韓 俊姬

芸術学部 アート・デザイン
表現学科 メディア表現領域
3年次在籍



『なんだから魅かれるハングル』

リク キンシン

短期大学部 造形学科
デザインコース
2年次在籍



『SMOKING』
フェルト/H140xW60mm/2011年

平成25年度 大村特別賞 [記念品]

女子美術大学付属中学校2年生

選考理由:
文部科学省が後援する2013年第11回けん玉ペインティングコンテストにおいて、付属中学2年生全生徒がエントリーし、団体優秀賞受賞、更に個人では最高賞の文部科学大臣賞、特選、部門賞を獲得。

女子美術大学同窓会神奈川支部「絵いっばい運動」

選考理由:
神奈川県教育委員会からの要請に応え、同窓会を代表し神奈川支部が県立高校19校に40作品の絵を寄贈した。2013年神奈川県知事より感謝状が授与され、朝日新聞さがみ野版に写真入りで紹介された。

女子美術大学同窓会「子ども感性教育研究会」

選考理由:
杉並キャンパスにおいて2002年より今年まで2回のセミナーを10年間にわたり開催している。その内容は多岐にわたり、常に質の高いセミナーやワークショップを本学学生・生徒をはじめ、キャンパス近隣の子どもらシニアまで多数の方に提供し続けている。

10月25日〜27日の三日間、杉並、相模原の両キャンパスで女子美祭が開催されました。2013年は台風接近の天気予報に女子美祭の開催も危ぶまれましたが、無事開催することができました。悪天候にもかかわらず各専攻、領域の学生による作品展示をはじめ、学生によるワークショップや自作グッズの展示販売会場、模擬店は大盛況。最終日は女子美生待望の晴天が復活。天候対策に追われた実行委員のメンバーも、やっと安堵の表情をうかべていました。

杉並キャンパスでは声優の杉山紀彰さんのトークショーと、明和電機代表取締役社長の土佐信道さんの講演会を開催。開催前から評判をよんでいたイベントだけに、開催当日も大変なごわいでした。一方の相模原キャンパスでは、でんぱ組のスペシャルステージの他、キングコングの西野亮廣さんやアートディレクターの長嶋りかこさんの講演会が開催され、好評を博していました。



マーラ・セルベット客員教授、イタリアデザインの魅力を語る

11月1日、マーラ・セルベット客員教授の講演会「イタリア国際家具サロンとミラノ・デザインの魅力について」が、杉並キャンパス 110周年記念ホールにて行われました。毎年ミラノで開催される「ミラノ・サローネ(国際家具見本市)」の話から、イタリアのみならず世界各国で活躍されている先生ご自身の仕事内容を通して、建築・デザインの魅力をお話いただきました。ファッションブランド展示会のスペースデザイン、イタリア政府より依頼されたイタリア統一記念150周年記念のインスタレーションのデザインなど、先生の作品は建築・デザインを勉強する者なら誰もが憧れるものばかりです。

講演最後の質疑応答では、平成24年度女子美ミラノ賞受賞者として先生の事務所で1年間を過ごした宮園夕加さんがイタリア語で「先生のようなアーティスト、デザイナーになるのはどのような努力が必要ですか?」と問いかけると「何にでも興味を持って、行動する。好奇心旺盛になることです」と先生。2014年4月、ミラノ・サローネの時期に合わせて女子美の「インターン・シップ in ミラノ」を新たに実施。滞在中は、セルベット先生がデザインした施設に宿泊予定です。



学校法人北里研究所と 連携・協力協定を締結

平成25年11月14日、学校法人女子美術大学と学校法人北里研究所は、両法人の設置する大学の教育理念に定めるところにより、両大学の優れた実績を生かした連携・協力を推進するため協定を締結しました。調印式は、同日、学校法人北里研究所白金キャンパスにおいて執り行われ、同法人より藤井清孝理事長、岡安勲学長、本学は、大村智理事長、横山勝樹学長が協定書に署名を行いました。本学では、これまで

も北里大学メディカルセンター(埼玉県北本市)での絵画展や産科病棟のヒーリングアート、平成26年5月に開院する北里大学病院の新病院(神奈川県相模原市)にヒーリングアートを設置するプロジェクトなど、作品提供のもと交流を行っています。

「善とは、悪とは」 真の意味を追究する デザインの授業、開講



芸術学部デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻客員教授である仲條正義先生の特別講義が10月19日、相模原キャンパスで行われました。講義の課題は「善人と悪人が出てくるストーリーを1枚の絵にする」。この単純に見えてある意味抽象的な難しい課題に今回は15名の学生が挑戦しました。「デザインというものは、どうしてもきれいな形や、かわいらしいものになってしまうものだから、あえていじわるな課題にしてみました」と仲條先生。学生たちが善と悪をどのように表現するかが鍵となり、見ごたえのある講評会になりました。「白が善人で黒が悪人。一人の中に善と悪がある。そういうあたりまえの提案は求めていません。もっと真偽を奥深いところからひっぱり出して作品を作ってもらいたいです」と先生からの言葉に学

生達は真剣な眼差しで応えていました。数ある作品の中で見事グランプリである仲條賞を受賞したのは同専攻3年生の中川美香さん。「この課題は仕上げることを目標にできました。友達や研究室の方からのアドバイスや協力なしでは完成できなかったもので、グランプリをいただいたときは驚きました」と話していました。

仲條正義

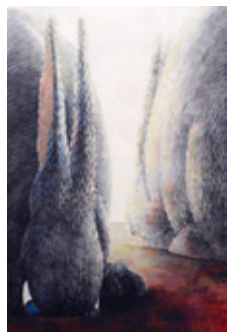
1933年東京生まれ。'56年東京藝術大学美術学部図案科卒業。資生堂宣伝部、デスカを経て'61年仲條デザイン事務所設立。主な仕事に、資生堂企業文化誌『花椿』、東京都現代美術館、松屋銀座のロゴマーク、資生堂パーラー銀座本店ショップのパッケージデザインなど



02 | 錫のメッシュシートで 「祝いの品」を表現

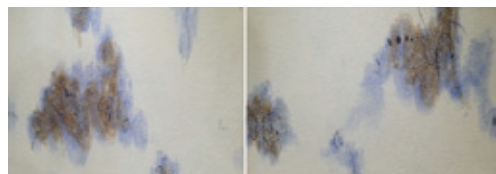
若手デザイナーの登竜門のひとつ「富山プロダクトデザインコンペティション2013」で、プロダクトデザイン専攻2年生松山美欧さんの作品『花束から花器に 祝いの余韻』が「準とやまデザイン賞」を受賞しました。受賞作品を構成する金属のメッシュシートは、花束を包むだけでなく、折り曲げれば花器にもなるというもの。その多様性の高さが今回の受賞につながりました。

NEWS
&
TOPICS



10 「分身」の「兎」と共に描く 心のなかの二面性

「第38回東京春季創画展」でも『自画像』が入選した大学院日本画研究領域1年の山村 遥さん。つづく「第40回記念創画展」にて『ひとりごとII』が入選しました。作品上で一貫して描かれるのは自身の「分身」でもある「兎」。山村さん曰く「人が生きるために無意識に隠そうとする感情を兎の姿を通して描きたい」とのこと。3月には初の個展も開催、さまざまな表情を見せる「兎」に出会えそうです。



09 日本と韓国、現代アートを通じた文化交流

駐日韓国大使館、韓国文化院が主催する「チャレンジ・アート・イン・ジャパン2013」に大学院洋画研究領域2年生のKu Gippeumさんの作品『空間の中の筆』が入選しました。この展覧会は、韓国から日本の美術系大学に留学している学生を対象に開催。本学の他、多摩美術大学、東京藝術大学、東京造形大学、武蔵野美術大学の学生13名の作品が韓国文化院のギャラリーで展示されました。



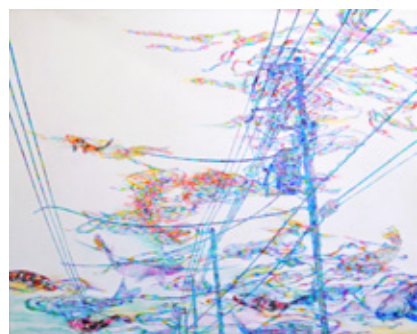
06 日本画連作で「目には見えない心の形」を表現

新しい童画=ナイーブアートの創造と発展を目的に、1976年から開催されている「現代童画展」。第39回展覧会で、卒業生の丁子紅子さんの連作『放つことで』『受け入れることで』『終うことで』が「上野の森美術館賞」を受賞しました。丁子さんは2013年に日本画専攻を卒業、現在ジュエリーデザイナーとして働く傍ら意欲的に創作活動を続けています。今後の活躍に期待します。



05 染とガラス、ふたつの分野で女子美生入選

工芸を学ぶ学生や大学院生の他、卒業・修了後5年以内の作家だけが応募資格を持つ「次世代工芸展」。京都で開催された展覧会に工芸専攻3年生、2名の作品が入選しました。入選したのは、染コース 菅 彩香さんの絞り染めを用いた作品『夏』と、ガラスコース 滝口 和さんの力強い作品『grow』です。入選作品は10月22日～27日の間、京都市美術館別館にて展示されました。



12 日常生活に混ざり込む 異世界のイメージを表現

国内で創作活動をする35歳以下の作家が対象のアーティストの登竜門「Dアートビエンナーレ2013」に、2002年日本画専攻卒業生、春草絵未さんの作品『ほどける夕闇』が入選しました。平成25年度の制作・研究奨励賞も受賞している春草さん、精力的に制作活動を展開し、2014年1月にはグループ展も開催決定。ますますの活躍を期待します。



11 「ひっそり彫刻」 思わぬ快挙!

洋画専攻3年生 吉元絵実莉さんの木彫作品『SEXY@大根』が「第98回二科展木彫部門」にて入選しました。同専攻内の希望者限定、「ひっそり彫刻」というゼミで仕上げたこの作品。初出品にして入選を果たした快挙に、作者の吉元さん自身も驚いたとのこと。「夏休み返上でひっそり作ったかがありました!いっしょに夏を過ごした作品の大根も嬉しいと思います」と喜んでいました。



08 パンから伝わってくる 人生のよろこび

セザンヌ、ピカソ、ユトリロなどが出展者として名を連ね、藤田嗣治、佐伯祐三らが挑戦してきたフランスの美術展覧会「サロン・ドートンヌ展」。2013年の展覧会に、1991年短期大学部造形科卒業生、酒井ゆみ子さんの作品『パンの旅 明日への記憶』が入選しました。パンを描きつづけ、人生を生き抜く力強さを表現してきた酒井さん。日本古来の岩絵具や銀箔で表現した作品です。



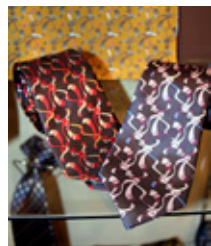
07 立体アートから 2名の受賞者

「第68回行動展彫刻部」に、女子美生6名、2013年卒業生1名の作品が入選しました。また入選者のうち、大学院立体芸術研究領域2年生石井文音さんの作品『conflictedIII』が「奨励賞」を、2013年立体アート専攻卒業生の芋生梨江さんの作品『脱皮I』が「新人賞」を受賞。入選と共に嬉しい知らせとなりました。
入選者:石井文音さん(大学院立体芸術研究領域2年)、竹内七月姫さん(大学院同1年)、福本美代さん(立体アート専攻4年)、安藤美紗生さん(同専攻3年)、内藤早良さん(同専攻3年)、金明麗さん(同専攻3年)、芋生梨江さん(同専攻2013年卒業)



20 色とりどりの相模原市北総合体育館のガラス壁面

相模原市北総合体育館のガラス壁面を、メディア表現領域3年生 松左川水鳥さんがデザインしました。相模原市都市整備公社と本学が連携している本プロジェクトの一環です。「テーマの“躍動感”をこどもの姿を通して表現しよう」と松左川さん。こどもが家に帰るまでの冒険を表したこのデザイン、素材がガラスであることを活かした色と色との美しい重なりも見どころです。



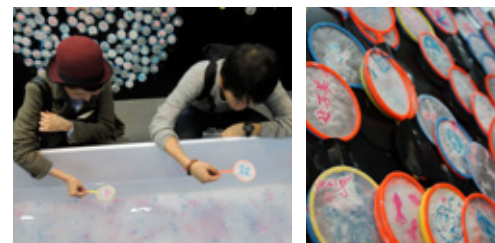
19 女子美生と織物の街がコラボ

工芸専攻くテキスタイルコースの学生有志がデザインしたネクタイが製品化され「JFWジャパンクリエーション2014」に出展されました。これは八王子織物工業組合のブランド「マルベリーシティ」との学外連携プロジェクトとして行われたもの。学生からは「提案した図案がジャガード織りで製品になっているのを見るのは嬉しい」との声が寄せられました。



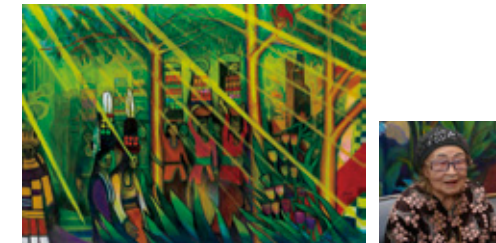
18 「龍木プロジェクト」の絵本、誕生!

東日本大震災を契機に結成された女子美のプロジェクト「OMODOC」。チームが石巻市で実施したアートプロジェクトから、絵本「町をまもった龍木」が誕生しました。作者は2013年、メディアアート学科卒業生の松田春花さん。卒業制作として制作した絵本を「被災地のため、なんとか出版したい」との思いから募金サイトで基金を募り、出版。現在、好評発売中です。



14 金魚すくいに来場者のハートをつかんだ女子美生

10月26日～11月4日の10日間にわたり、都内の各会場で開催された「TOKYO DESIGNERS WEEK」。プロダクトデザイン専攻から有志12名が「FES」というテーマのもと、金魚すくいをモチーフにした作品を制作、展示に臨みました。こちらの作品は「第1回 ASIA AWARDS」で、学校作品展学校賞部門に入選。作品総数229点の中から上位12校の優秀作品にも選ばれました。



第81回独立展「バリ島ガランガンまつりの日」200号、2013年

13 大村文子基金に「女子美栄誉賞」が創設されました

大村文子基金に「女子美栄誉賞」が創設され、記念すべき第1回受賞者として1938年女子美術学校師範科西洋画部卒業の入江一子先生が選定されました。代表作はシルクロードを題材とした色彩溢れる作品。1946年女流画家協会創立メンバーで、女流画家の後進育成に尽力され、同協会及び独立美術協会において現在最年長作家でもあります。93歳でニューヨークにて個展開催など、70年以上画壇の第一線を歩み続けています。



23 「女子美アプリ」無料配信中!

「女子美アプリ」は大学案内や広報誌をスマートフォンやタブレット端末で閲覧できる受験生向けの女子美公式のアプリケーションです。ダウンロードしたパンフレットはオフラインでも読むことができます。本学の公式Facebookにもリンクしているので、最新の情報もアプリでチェックが可能。「App Store」「Google play」より無料でインストールできますので、ぜひお試しください。



22 女子美野球部Venusが全日本大学女子野球全国大会出場!

8月24日、富山県魚津市で開催された第27回全日本大学女子野球選手権大会に女子美野球部Venusが出場しました。初めての全国大会は惜敗でしたが、創部2年目での全国大会出場。次の勝利を目指して毎週練習に励んでいる彼女たちの今後に期待しましょう。



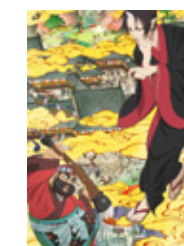
21 中村史郎氏、日産デザインのトップによるクリエイター理論

10月11日、日産自動車株式会社チーフクリエイティブオフィサー中村史郎氏の出張授業が開催されました。出張授業にあわせキャンパス内に電気自動車のコンセプトカー「チョイモビ」、独特な外観のコンパクトSUV「JUKE」が搬入され、多くの注目を集めました。マーケットイン・プロダクトアウトの考え方、グローバルとローカルの関係性など、カーデザイナーとしてのものづくりについて熱く語られた出張授業。およそ180名の聴講者が集い、女子美生にとっても非常に貴重な時間となりました。



17 アジア高校生アートアワード2013授賞式を女子美で開催

10月27日、女子美相模原キャンパスにて「アジア高校生アートアワード2013授賞式」が開催されました。日本、韓国、中国から応募された1180点の中から選ばれた大賞受賞者3名の他、金賞受賞者9名が招待され、授賞式に出席。共催の誠信女子大学(韓国)と上海交通大学海派文化研究所(中国)からも多くの先生方が式に参列し、祝福の言葉を下さいました。



(c) 江口夏実・講談社/鬼灯の冷徹製作委員会

16 江口夏実さん作、「鬼灯の冷徹」が1月よりアニメ放映開始

2007年日本画専攻卒業生の江口夏実さん作の漫画「鬼灯の冷徹」が2014年1月よりMBS系「アニメイズム」枠でテレビ放送されます。物語の舞台は地獄。主人公である閻魔大王の補佐官鬼灯の忙しくも楽しい地獄の日常が描かれています。2012年の「全国書店員が選んだおすすめコミック」では見事1位に選ばれました。



15 アートディレクター吉田ユニ「ミュージック・ジャケット大賞2013」受賞

デザイン学科の2002年卒業生で、アートディレクターとして活躍されている吉田ユニさん。手掛けたCDジャケットが「ミュージック・ジャケット大賞2013」の大賞を受賞しました。受賞作はYun*chiさんのデビューアルバム「Yun*chi」。遠目で見ると「くちびる」、近くで見るとYun*chiさんが横たわっているデザインの凝ったジャケット。音楽ファンの投票によって、ジャケットのアートワークの制作関係者を顕彰するこの賞は2011年制定され各界で注目されています。

JAM

造形さがみ風っ子展

10/24(木) ⇨ 10/28(月)

毎年恒例の相模原市教育委員会主催による小中学生の作品展。今年は会期中にファッションショーも開催され、賑やかな雰囲気となりました。

女子美術大学美術館収蔵作品展「四季をめぐる」

11/9(土) ⇨ 12/15(日)

本学の収蔵品の中から、四季をあらわした平面作品約30点と、芹沢銈介が手がけた染紙のカレンダー約200点を展示しました。会期中の関連イベントを通して、展覧会を多角的にお楽しみいただきました。

女子美ガレリアニケ

井江春代 はり絵の世界
～大地の女神・パチャママと動物たち～

9/3(火) ⇨ 9/27(金)

本学卒業生の井江春代さんが創作した「大地の女神・パチャママ」の絵本原画やはり絵作品などを展示しました。

女子美術大学・東京工芸大学・長岡造形大学・
多摩美術大学・中国伝媒大学 五大学合同写真展 〇展

10/11(金) ⇨ 10/19(土)

本学と東京工芸大学、長岡造形大学、多摩美術大学、中国伝媒大学で写真を学ぶ学生と教員の作品を展示しました。

ポスターにできること。
女子美術大学×電通 人権ポスター学生作品展

10/25(金) ⇨ 11/8(金)

本展では「人権アートプロジェクト2013」に参加した、本学の学生作品を展示しました。

平成25年度
女子美術大学 女子美術大学短期大学部 退職教員記念展

11/29(金) ⇨ 12/14(土)

本展では平成25年度に本学を定年退職する実技系教員5名の作品を、女子美ガレリアニケと110周年記念ホールに展示しました。

展覧会予告

JAM

1/6(月) ⇨ 2/3(月)

平成25年度 退職教員記念展

平成25年度に定年退職する実技系教員(小倉文子、柏原花子、津田裕子、広瀬きよみ、渡辺治美)の作品をご紹介します。

3/12(水) ⇨ 3/20(木) ※会期中無休、女子美ガレリアニケと同時開催

平成25年度 女子美術大学大学院修了制作作品展

平成25年度に大学院美術研究科を修了する学生の作品を展示します。JAM：洋画、日本画、版画、工芸(織)、立体造形、視覚造形、環境造形、色彩学、芸術表象を専攻した学生の作品を展示。

女子美ガレリアニケ

1/9(木) ⇨ 1/15(水) ※最終日は12:30まで

アート・デザイン表現学科
AP(アートプロデュース表現領域)卒業制作展

前期 2/18(火) ⇨ 2/22(土)

後期 2/25(火) ⇨ 3/1(土)

平成25年度 女子美アート・セミナー通年講座 作品展

1/17(金) ⇨ 2/7(金)

第二回 百年丹青縁展 日中国際交流書画展
女子美術大学・上海交通大学

3/12(水) ⇨ 3/20(木) ※会期中無休、JAMと同時開催

平成25年度 女子美術大学大学院修了制作作品展

ニケ：ヒーリング造形、メディアアート造形、ファッション造形を専攻した学生の作品を展示。

歴史資料展示室

9/11(水) ⇨ 3/16(日)

平成25年度収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み
～私立女子美術学校開校時に設置された学科を中心に～

収蔵資料により大学史を紹介するとともに、開校時に設置された学科の歴史資料や卒業生作品を紹介します。



JAM 展覧会報告 PICK UP

2013/9/6(金) ⇨ 10/17(木)

インドネシアは多数の島々からなり、島々には独自の文化が継承されています。衣裳にかかわる伝統も島により異なります。今回はインドネシアで制作されるロウケツ染めのパティックと絣織のイカットを展示しました。

展覧会に先立ち、伊藤ふさ美氏(パティック作家、本学卒業生)の指導のもと本学学生を対象にパティックを染めるワークショップを行いました。学生作品をJAMロビーで展示し、伝統的なパティックと趣を異にした独創的な作品をご覧いただきました。会期中には「インドネシアを知る」と題した講演会を開催し、小笠原小枝氏、伊藤ふさ美氏、松本亮氏にインドネシアの染織品の概要、パティックの制作とその魅力、インドネシアのワヤン(影絵芝居)と王宮の生活について等を講演いただきました。また、ワヤンとガムラン演奏も上演し、多くの観客を魅了しました。

女子美染織コレクション展 Part 3
「インドネシアの布―島々の記憶―」



女子美術大学広報誌

発行 学校法人女子美術大学
〒166-8538
東京都杉並区和田1-49-8
企画・編集 総務企画部広報グループ
監修担当 浅野正博・林規章
デザイン協力 株式会社 Kitchen Sink.
印刷 株式会社 ヒーローズ
発行日 2014年1月8日

©2014 学校法人女子美術大学

広報グループでは女子美のニュースを募集しています。お気軽に下記までお知らせください。また、本誌の定期購読をご希望の方はお送り先を広報グループまでご連絡ください。

広報グループ | TEL 042-778-6123
E-mail prs@venus.joshi.ac.jp
URL <http://www.joshi.ac.jp>